

アンドウの必要性

エクセルの仕様で、VBAによるマクロ実行を行うと、アンドウ・バッファがクリアされてしまいます。マクロ実行により、簡易にデータを編集することが出来る反面、誤った操作などによる、編集ミスに戻ることが出来ないといった、不都合が生じるケースが考えられます。

従って、この問題の改善と、さらなる利便性の向上のために、『Footcel』では、アンドウ及び、リドゥ機能を実装したいと思います。

機能仕様

- マクロ実行による編集を、アンドウ・リドゥできます。但し、限られた回数までとします。
- 限られた回数は、5回までとします。
- マクロ実行以外による編集が行われた場合、アンドウ・リドゥバッファは、クリアされます。
- セル編集に対する、SET_TEXT関数を実装し、アンドウ・リドゥバッファを蓄積します。
- アンドウ・リドゥバッファは、固定サイズの配列で保持し、バッファの現在位置と個数で管理するデータ構造とします。
- アンドウは、キー入力の【CTRL】 + 【SHIFT】 + 【z】、
リドゥは、【CTRL】 + 【SHIFT】 + 【y】により、処理される仕様とします。